

進捗状況の概要

平成 27 年度の目的は、AL 型授業の全学展開の環境を整えていくことである。教育技術開発ワーキンググループ（以下、教育技術開発 WG）を中心に、AL をテーマとした講演会や報告会を開催することにより AL 型授業導入に関する心理的障壁の引き下げを図る他、AL 対応教室に必要な設備・備品について検討、整備を進めるとともに、クラス・サポーター育成に着手、授業アーカイブシステムの導入・運用開始など、物理的な条件整備を行った。

項目	概要
1. 教職協働による AL 型授業推進体制の構築	(1-1) 教育技術開発 WG の毎月開催 (1-2) ファカルティ・ディベロッパーの育成検討
2. 学習成果指標の策定	(2-1) ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーに基づく運営 (2-2) アドミッション・ポリシーの改訂審議 (2-3) ジェネリックスキルの測定 (2-4) 在学生アンケート調査実施 (2-5) AL 導入科目実施状況・受講学生数の調査実施
3. AL 事例調査・研究	(3-1) 他大学の先行事例の訪問調査
4. AL 講演会・報告会	(4-1) AL をテーマとした講演・報告会
5. クラス・サポーターの育成	(5-1) クラス・サポーターの雇用 (5-2) クラス・サポーター育成プログラムの開発
6. AL 対応教室の整備	(6-1) AL 対応教室の整備
7. 授業アーカイブシステム	(7-1) 授業アーカイブシステムの導入 (7-2) 授業アーカイブをテーマとした FD 研修会
8. 点検・成果公表	(8-1) 「評価委員会」を年度内に 2 回開催 (8-2) 成果と課題の開示として、ホームページ、リーフレット、事業報告書の作成

実施体制である教育技術開発 WG を通じて、諸取組を実施することで、昨年度に引き続き、AL の全学展開のための物理的な条件整備を行う第 1 フェーズの取組を遂行することができた。具体的には、AL 推進体制の見直しによる AL 実践研究会の発足および教育技術開発 WG 構成員の変更、およびファカルティ・ディベロッパーの在り方の検討は、AL の全学展開に不可欠な「教授手法の質的転換」を実質的に進展させるための機運を高めた。また、本取組の成果を測定するための指標の策定や調査の実施を進め、本取組の目的と目標となる指針を定めることができた。他大学の先行事例の訪問調査では、教育技術開発 WG メンバーおよび関心を持つ教員が視察に加わり、その内容を持ち帰り報告することで、他の教員の新たな関心を呼び、実際に講師招聘して AL 講演会を行ったり、その内容を早速実践して学内発信したりするなど、積極的な事業展開を進める原動力となった。なお、AL 型授業対応教室の整備が進んだほか、授業アーカイブシステムが導入され、後期科目における反転授業や振り返り学習のための利用が始まり、AL 型授業を展開するためのインフラがほぼ整った。さらに、クラス・サポーターの積極的な雇用が進み、特に専門科目でのクラス・サポーター活用を想定した事前研修プログラムの開発、実施につなげることができた。